談　話　室

歌をめぐる物語

－琵琶湖周航の歌，琵琶湖哀歌，七里ヶ浜哀歌－

小　岩　昌　宏*

A revisit to songs of “Lake Biwa Rowing Song（Biwako Shuko no Uta）” and of Mt. Fuji Entirely Covered with Snow

by Masahiro KOIWA

滋賀県に住んで20年余，毎日琵琶湖を眺めて暮らしている．以前は自宅の２階からも見えたのだが，木が生い茂り，あとから建った市営アパートが視界をさえぎった．しかし，車で５分の場所に借り受けた畑からは，ほぼ真正面の対岸には琵琶湖博物館の風車（風力発電機）も望め，晴れ渡った日の瑠璃色の湖面，灯ともしごろからの夜景は目を楽しませてくれる．

「琵琶湖周航の歌」は高校生のときに初めて耳にしたように思う．昭和27年に開局した文化放送は関東圏を対象圏としていたが，私が住んでいた愛知県でも５球スーパー受信機なら電波を捉えることができた．夏休みのアルバイトで稼いだ金で部品を買い集め，組み立てたラジオで旺文社提供の大学受験ラジオ講座を聴いた．１時間に２コマの講義の間の休憩時間に，寮歌・学生歌が流された．その折に初めて聴いたのだと思う．

大学２年の頃，琵琶湖湖畔　堅田の旅館に泊まったことがある．大学入試模擬試験の打ち合わせのためであった．当時は予備校など受験産業もまだ全国展開をしておらず，諸大学の学生がアルバイト団体を組織し，各地の高校の教室を借用して模擬試験を実施していた．そのような団体の全国的な協議会があり，年に１，２回は統一問題を作成し，全国学力コンクールと銘打って全国一斉の模擬試験を行っていたのである．私は，東京大学学生文化指導会の数学問題作成担当の一人として，堅田の会議に参加した．その夜，京大生のバイト仲間とボートに乗ったとき，彼と一緒に「琵琶湖周航の歌」を歌った．思いがけず，堅田の近くに住むことになったのだが，浜大津－近江今津間を運行していた江若鉄道線は1969年に廃止になり，当時とはすっかり様子が変わっている．

「歌に思い出が寄り添い，思い出に歌は語りかけ，そのようにして歳月は静かに流れていきます．」（NHK にっぽんのメロディ，中西 龍）まさしく，「琵琶湖周航の歌」は私にとってそのような歌である．琵琶湖の畔に林住期を送る今，この歌，およびこの歌と曲調，曲想の似ている「琵琶湖哀歌」，「七里ヶ浜哀歌」にまつわる話を綴ってみたい．

1.　琵琶湖周航の歌

琵琶湖疎水の取水口に突き出た三保が崎に「われは湖の子」記念碑と歌碑がある．周航開始80年を記念して昭和48年（1973）に三高同窓生が建設したもので，記念碑には建碑の由来が記されている．

> 「・・・・明治25年水上運動部を創設して，琵琶湖に漕艇を開き，翌26年４月有志21名初めて周航の業をなす．尓来80年，競漕は年々隆盛に赴き，周航は琵琶湖漕艇の神髄となり，湖上に艇を操るもの皆この岬より出でてこの岬に還える．或る時は力漕よく漕技を練り，或る時は湖上風物に詩情を養い，沿岸の史跡を訪ね人情を探り，艇を友にする者友情流露して心友堅く相結ぶ．
>
> ・・・・小口太郎君等琵琶湖周航の歌を創るや，学生好んでこれを唱し，遂に一世を風靡して今日に至る・・・・」

歌の誕生

大正６年６月，小口太郎ら一行は学年末（当時７月卒業）の慣例によって琵琶湖周航に出た．周航は小口が友人に送ったはがきから，次のような日程で行われたことが明らかになっている（写真１）．

第１日　琵琶湖南端の大津三保ヶ崎を出発後，西岸沿いに北上し，雄松で宿泊．

第２日　北上して今津で宿泊．

第３日　今津から東進し竹生島を経て，東岸の長浜で

*京都大学名誉教授（昭和34年　東大工冶金　卒）

昼食．南下して彦根で宿泊．

第４日　彦根を出発して，長命寺で昼食ののち，南下し大津に至る．

「琵琶湖周航の歌」の原形ができたのは，２日目の今津の宿でのことである．小口太郎が作った詩を見て感心した中安治郎がクルーに紹介し，三高の音楽グループ“桜楽会”が当時よく歌っていた『ひつじぐさ』のメロディで歌って見たところ，歌詞にピタリと合った．このとき，何番まで書かれていたかは明かではないが，今津滞在中ということからすれば３番まで，あるいは翌日の行程である竹生島のことを考えると４番まで完成していたのかもしれない．今日歌われている６番までの歌詞ができあがったのは，翌大正７年（1918）で，友人の助言も考慮して小口太郎が仕上げたと伝えられている．

ところで，歌詞の６番には「西国十番長命寺」と歌われているが，十番札所は宇治の三室戸寺で，長命寺は三十一番札所である．三十一番では歌いにくいので，事実より語感を重んじて十番としたものらしい．長命寺港桟橋の後方にある歌碑には「黄金の波にいざ漕がん　語れ我が友　熱き心」とだけ書かれている．

「琵琶湖周航の歌」は三高生たちの間で歌われてきたが，一般にはあまり知られていなかった．しかし，加藤登紀子が　昭和46年４月，「知られざる叙情歌」を集めて「日本哀歌集」というアルバムを発表，同年５月，そのなかから「琵琶湖周航の歌」と「知床旅情」をシングルカットして発売したのをきっかけに広く歌われるようになった．

作詞者　小口太郎（写真２）

明治30年（1897）８月30日，信州諏訪湖西岸の湊村（現岡谷市湊）で生まれ，旧制諏訪中学（現諏訪清陵高校）に入学した．その人柄について，諏訪中学の同級生であった小口大次は次のように語っている．

「容姿は端麗，優雅，女性的であり，しもぶくれの顔立ちで両眼は細く，笑った時には糸を引いた様になり，両頬には可愛らしい笑窪が出来た．性格は温和，従順で，他と争う様なことは絶無であったが，胸中に自己の堅い

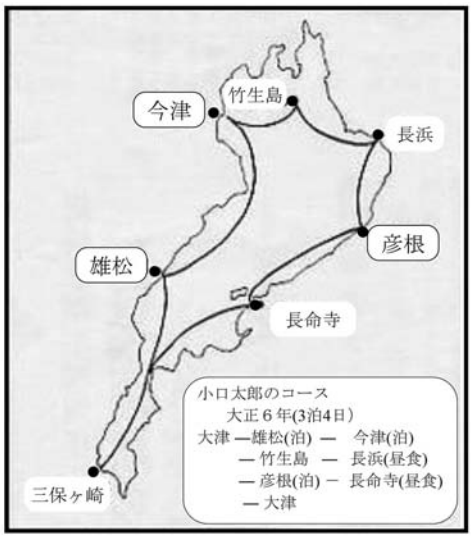

写真１　琵琶湖周航の歌のコース

写真２　小口　太郎

琵琶湖周航の歌

作詩　小口太郎
作曲　吉田千秋

1
われは湖の子　さすらいの
旅にしあれば　しみじみと
昇る狭霧や　さざなみの
滋賀の都よ　いざさらば

2
松は緑に　砂白き
雄松が里の　乙女子は
赤い椿の　森陰に
はかない恋に　泣くとかや

3
波のまにまに　漂えば
赤い泊火　懐かしみ
行方定めぬ　波枕
今日は今津か　長浜か

4
瑠璃の花園　珊瑚の宮
古い伝えの　竹生島
仏の御手に　抱かれて
眠れ乙女子　やすらけく

5
矢の根は深く　埋もれて
夏草しげき　堀のあと
古城にひとり　佇めば
比良も伊吹も　夢のごと

6
西国十番　長命寺
汚れの現世遠く去りて
黄金の波に　いざ漕がん
語れ我が友　熱き心

信念らしきものを持っていた様に思われる」

大正５年（1916）９月，旧制三高の二部乙（理工農進学コースのドイツ語クラス）に入学，卒業後は東京帝国大学理学部物理学科に進んだ．長岡半太郎，田丸卓郎など教官７名，学生17名の集合写真が残されている．在学中に「有線及び無線多重電信電話法」を発明し数か国の特許を得た．特許 42787 号の明細書の「発明の性質及ヒ目的ノ要領」には以下の様に記されている†．

「本発明ハ多数ノ送話機ヨリ同時ニ来ル多数ノ電信電流ヲ『ドップレル』効果ニヨリテ調子ヲ高メ　以テ波形ヲ凝縮シ一箇ノ金属線回路或ハ一対ノ無線電話装置ヲ通シテ順次迅速ニ断片的ニ送リ　再ヒ同一ノ効果ヲ適用シテ波形ヲ膨張セシメ原振動ヲ再現スルノ操作ヲ同周期的ニ繰返シ　以テ多数ノ原音声ヲ連続シテ同時ニ聞ク所ノ有線及ヒ無線多重電信電話法ニ係リ　其目的トスル所ハ一箇ノ金属線回路或ハ一対ノ無線電話装置ニヨリテ　同時ニ多数ノ電信電話ノ受送話ヲ行フニアリ」

大正11年（1922）年卒業と同時に，田丸卓郎教授の勧めで同大学の航空研究所に研究業務嘱託として入所する．徴兵延期を望んで「医学部へ再入学し細菌学を専攻する」と生家への手紙に記しているが，航空研へ入所することによっても徴兵を避けられると考えたらしい．しかし，12年５月の徴兵検査では甲種合格で，12月には松本連隊に入隊することになり，６月30日付で航空研究所を辞職する．この頃，光学顕微鏡の分解能を上げる研究に没頭し精神的，肉体的に疲弊していた．郷里に戻り近くの寺で静養がてら研究を続けた後，東京の精神科病院に入院し，大正13年（1924）５月16日，26歳の若さで亡くなった．表向きの死因は脳溢血とされているけれど，実際は自殺であった．兵役を苦にしてウツ病を発症したと推測されている

生家には，父・銀之助宛に寄せられた太郎の夭折を悼む便りが残され，その中には，航空研究所での指導者であった寺田寅彦の手紙もある．

「拝復　御子息様御永眠の御報に接しまして謹で哀悼の微意を表し度と存じます．此やうな事を申上げて宜敷かどうか分りませんが，誠に珍しい有為の材をいだかれて御早世なさいました事は，吾々に取っても痛惜の至で御座いますが，何共致方な次第で御座います．御一統様御愁傷御落胆の程如何計りかと拝察致します．右御見舞のみ申上げます．不悪御賢察を祈ります．不尽」―寺田寅彦　十三・五・二十一―

作曲者は誰か？

寮歌集をはじめとする歌集には，「琵琶湖周航の歌」は作詞・作曲とも小口太郎，あるいは作曲者不詳と記されていた．昭和46年（1971）に加藤登紀子が歌って全国的に知られるようになり，改めて作曲者探しが行われた．旧三高 OB 堀準一，安田保雄らの調査の結果，吉田千秋という人物が作曲者であることが判明した．

作曲者　吉田千秋（写真３）

明治28年（1895）２月18日，吉田東伍の次男として，新潟県小合（こあい）村（現在は新潟市）で生まれた．吉田東伍は歴史地理学者で，『大日本地名辞書』などの著作により知られている．千秋は明治40年（1907）４月，東京府立第四中学校（現都立戸山高校）へ進学，明治45年（1912）３月，同校卒業とともに東京農業大学に進む．

写真３　吉田　千秋

†この「発明」について情報通信に造詣の深い友人，甘利俊一氏の意見を求めたところ，次のような返事をいただいた．

「小口さんの提案についてはまったく知りませんでした．なるほど，この時代に時分割通信を提案したのはたいした見識です．しかし，技術はいろいろな要件がそろわないと実現しない．ひとつは，ドップラー効果で早回し効率的にできるかという問題ですが，もっと本質的には早回しをすれば，無限の個数の通信を送れるということです．これは，何かがおかしい．これが何であるのか，これはShannonの情報理論を待たなければ解決できなかった．Shannonの情報理論以降，時分割方式が脚光を浴びてきます．時分割と対になる，周波数分割をいち早く実用化されましたが，これは電波の周波数を変えることで，無線やラジオで使われたわけです．時分割には，やはり技術手段として早回しではなくて，符号化が実用には不可欠であったわけです．このような着想を喜びますが，そこからさらに一歩でて，通信の本質と早回しという技術の関係を考察する必要があった．それがないと，単なる思い付きで終わってしまうわけです．でも，着想はすばらしい．」

Water Lilies	ひつじぐさ 訳詩　吉田千秋
Misty moonlight, faintly falling O‘er the lake at eventide, Shows a thousand gleaming lilies On the ripping waters wide.	おぼろつきよの　月あかり かすかに池の　おもにおち 波間にうかぶ　かずしらぬ ひつじぐさをぞ　てらすなる
White as snow, the circling petals Cluster round each golden star, rising, falling with the waters, Moving, yet at rest they are.	雪かとまがふ　はなびらは こがねの蕊を　とりまきつ なみのまにまに　ゆるげども はなの心は　なみだたず
Winds may blow, and skies may darken, Rain may pour, and waves may swell; Deep beneath the changeful eddies Lilies roots are fastened well.	かぜふかばふけ　そらくもれ あめふれなみたて　さりながら あだなみのした　そこふかく もえいでたりぬ　ひつじぐさ

しかし，翌年，結核に罹患し休学，ほどなく退学した．大正４年（1915）６月，祖父母のいる小合村に帰り療養生活を送る．この間，動物，植物，天文学，方言学，文学と，さまざまなことに関心を示した．また，近くの教会の集会に参加し，聖書や賛美歌に親しんだ．歌が好きで幾つかの楽器をひき，作曲の技術を独学で習得した．大正８年(1919)，24歳の誕生日を迎えて間もない２月24日に亡くなった．

千秋は，明治43年に『英語青年』誌で紹介された英詩「Water Lilies」[†1]を訳し，大正２年に雑誌『ローマ字世界』に“Hitsuji－Gusa（ひつじぐさ）”として投稿した．そして，２年後，この詩に曲をつけ月刊雑誌『音楽界』の大正４年（1915）の８月号に発表した．

[†1]詩Water Liliesは英国の童謡集“Songs for our Little Friends”（Frederick Warne & Co.London,1875）作者は（E.R.B）とイニシアルのみが知られている．英語学者　石川林四郎もこの詩を訳し，タイトルを“睡蓮”として明治43年に雑誌『英語世界』に発表した．ひつじぐさ（未草）の名前の由来は，未の刻（14時頃）に花を開くからといわれている．

[†2]「比良八講」毎年３月26日に行われる湖国近江の伝統行事で，比叡山延暦寺の衆僧や山伏がほら貝などを吹きながら，浜大津港まで練り歩き船で浜大津港から近江舞子を目指し，湖上では水難者の回向法要，浄水祈願が行われる．また近江舞子では琵琶湖の一大水源である比良山に対する，報恩感謝の護摩供養が行われる．この時期に比良山から吹き降ろす季節風（比良おろし）を「比良八講」と呼び「比良八荒」とも書く．その後は穏やかな春が到来するので，「比良八講荒れ仕舞い」と言われる．このため比良八講は，奈良の二月堂のお水取りとともに春を告げる季節行事とされている．

2.　琵琶湖哀歌

第四高等学校（現金沢大学）漕艇部は，琵琶湖瀬田川コースで開催されるインターハイ（全国高校大会）の強豪であった．昭和16年度も第14回大会に備え瀬田川合宿を行い，最後の仕上げとして４月６日に恒例の今津～大津間 60 km 遠漕の途についた．ところが高島町沖合約 1 km のところで突風「比良おろし」に遭遇し，11名（漕艇班選手８名と OB の京大生ら３名）全員が湖底に消えた．全員の遺体収容に約２ケ月かかった．突風は琵琶湖地方特有の比良八講（荒）である[†2]．

「琵琶湖哀歌」はこの遭難事故を悼んで作られた歌（作詞奥野椰子夫，作曲菊池博）で東海林太郎，小笠原美都子が歌った（昭和16年６月テイチクレコード）[†3].なお，次のサイトで原盤の歌を聴くことができる．http://jp.youtube.com/watch?v=DQlyJDf8nko

なお，第四高等学校では四高漕艇班遭難追悼歌「思ひ出づる」が作られ，同校の寮歌のひとつとして歌い継がれている．http://www.kanazawa-u.ac.jp/grad/ryouka.htm

遭難事故の翌年の一周忌には，妙琳寺で追悼法要が営

[†3]レコードの発売の時期からすると，まだ遺体の捜索が続いていたさなかに，レコード会社はせっせと制作に励んでいたことになる．その歌詞については「近江八景や滋賀県の名勝をつまみ食いして並べ，キーワードを填め込んだだけの安直な歌詞である．『七里ヶ浜の哀歌』の歌詞の崇高さとはほど遠い．また四高生により作詞作曲された本当の鎮魂歌である『四高漕艇班遭難追悼歌』とは比べるまでもない」と酷評する向きもある．（琵琶湖哀歌の成立過程　参考文献[4]）

琵琶湖哀歌

作詩　奥野椰子夫
作曲　菊地　博

1
遠くかすむは　彦根城
波に暮れゆく　竹生島
三井の晩鐘　音絶えて
なにすすり泣く　浜千鳥

2
瀬田の唐橋　漕ぎぬけて
夕陽の湖に　出で行きし
雄々しき姿よ　今いずこ
ああ青春の　唄のこえ

3
比良の白雪　溶けるとも
風まだ寒き　志賀の浦
オールそろえて　さらばぞと
しぶきに消えし　若人よ

4
君は湖の子　かねてより
覚悟は胸の　波まくら
小松ケ原の　紅椿
御霊を守れ　湖の上

四高漕艇班遭難追悼歌

思ひ出づる

昭和十六年　第四高等学校

1
思ひ出づる調べも哀し
春浅く水藻漂ふ志賀のうみ
かの日風立ち雲たれて
呼び応ふこだまのみ
たそがれに流れいゆきぬ

2
はろばろと今に帰さむすべもなき
此の愁ひはたこの嘆き
さゞなみさやぐ志賀のうみ
ますらをの青春の日を
沈めしとうつゝなりや

3
あゝ在りし日のいさをしゆゑに
嘆かひはいよゝはげしく
たくましきますらを男の子の
思ひ出にめぐり来る春の日の
新たなる涙つきせず

4
沖の島に春の陽てりて
ほのぼのと霞み渡れり
岸近くさまよひゆきて砂にぎり
砂握りしめ夕なみに
いまはなき友を偲びぬ

5
さあれ見よ今よみがへりゆく
若き児の夢とのぞみよ
空青く水青き所再ゆかむ
ゆく春の血潮にそみて
夕陽ちるかの潮路を

まれ，四高関係者と地元大溝の者が協力して湖岸に千本の桜の苗（ソメイヨシノ）を植え，高島町（現高島市）萩の浜の入口の一角に「四高桜」と銘した石碑が建てられた．「四高桜」は年を経て老木となり枯死が進んできた．県道の約 800 m の区間を拡幅する計画が平成16年秋からすすめられ，その区間にある 177 本の四高桜のうち 112 本は新設された「萩の浜公園」に移植された．これを機に平成16年（2004）２月に「四高桜を守り育てる会」が発足し，四高桜の枝をヤマザクラに接ぎ木して鉢植えを作り，会員が自宅で育てて現地に移植する運動が進められている．

作詞者　奥野椰子夫（写真４）

奥野椰子夫は慶応大学を卒業後，都新聞学芸部記者として勤務したのち，昭和14年（1939），作詞家としてコロムビア・レコードに入社した．滋賀県堅田の出身で，浮御堂近くの「湖族の郷資料館」（大津市本堅田）（077-574-1685）に肖像などの資料が展示されている．また，近辺には彼の顕彰の碑が建てられ，「琵琶湖哀歌」の一番の歌詞が刻まれている．彼が作詞した歌でよく知られているのは，「夜のプラットホーム」である．戦後の混沌とした世相を思い出させ，かなわぬ男女の恋の切なさを偲ばせる．しかし，この歌は奥野がコロムビア・レコードに入社直後に作ったもので1939年（昭和14年）公開の映画「東京の女性」（主演：原節子）の挿入歌として淡谷のり子が吹き込んだものである．このレコードは，戦時下の時代情勢にそぐわないと検閲に引っかかり，同

写真４　奥野　椰子夫

夜のプラットフォーム

作詩　奥野椰子夫
作曲　服部　良一

1
星はまたたき　夜ふかく
なりわたる　なりわたる
プラットホームの　別れのベルよ
さよなら　さようなら
君いつ帰る

2
ひとはちりはて　ただひとり
いつまでも　いつまでも
柱に寄りそい　たたずむわたし
さよなら　さようなら
君いつ帰る

3
窓に残した　あのことば
泣かないで　泣かないで
瞬にやきつく　さみしい笑顔
さよなら　さようなら

年に発禁処分を受けた．事実，奥野の脳裏には新橋駅で目にした出征兵士を見送る情景－歓呼の声を上げる群衆から離れて，夫とおぼしき兵士を柱の影から見送る若妻－があった．レコードは発売禁止になったが，作曲した服部良一はあきらめきれず，詞を英訳し『I'm waiting』というタイトルで，作曲者名は服部良一をもじった R. Hatter と洋楽盤にカムフラージュして発売した．敗戦から１年半後の昭和22年（1947）２月，「夜のプラットホーム」は恋の歌として蘇えり，歌手は淡谷から二葉あき子に変わり，大ヒット曲となった．

奥野椰子夫が作詞した歌には，「僚機よさらば」（昭和12年），「赤城ブルース」（昭和15年），「涙の紅バラ」（昭和25年），「渋谷音頭」（昭和53年）などがある．

3.　七里ヶ浜哀歌

逗子開成中学の生徒の遭難事故を悼んで作られた歌で，「真白き富士の嶺（根）」とも呼ばれる．

遭難事故

事件は1910年（明治43年）１月23日の昼下がりに起こった．逗子開成中学の生徒ら12名が悪天候の中，江の島を目指してボートを漕ぎ出し転覆し全員が死亡した．７人乗りであるのに12人も乗りこみ，校則に反して無許可でボートを出し，禁止区域へ漕ぎ出した生徒への批判こそあれ，学校当局の責任を問う声は聞かれなかった．しかし，横須賀鎮守府の「吹雪」「霰」の２隻の駆逐艦が捜索に当たったこと，葉山御用邸に滞在中の皇太子（のちの大正天皇）が遺体捜索状況を視察に訪れたことが新聞報道される中で，風向きが変わって行った．遭難者全員の遺体が収容されたのは事故発生から丸４日後であった．徳田　兄（勝治，中学５年生，19歳）は弟（武三，小学高等科２年生，10歳）を堅く抱きしめた姿で収容され，人々の涙を誘った．後年，稲村ガ崎に建てられた遭難記念像（写真５）は徳田兄弟の姿を像ったものである．

写真５　ボート遭難の碑（稲村ガ崎）

慰霊祭

２月６日，逗子開成中学校校庭で営まれた合同慰霊祭（写真６）には，同校教職員生徒はじめ遺族，県知事，海軍将校など来賓合わせて千余名，式場周辺には４千名を超える会葬者が参集した．その追弔大法会の大導師は東京芝増上寺住職の横尾大僧正がつとめ，京都紫野大徳寺の僧正はじめとする高僧，県下および近県から150名余の寺僧が衆僧として参加するなど盛大に執り行われた．姉妹校の鎌倉女学校上級生徒70余名が黒紋付，黒袴姿で祭壇の前に整列し，三角錫子（みすみ・すずこ）教諭（写真７）のオルガン伴奏で“哀歌”を歌った．数学教諭であった三角が作詞したもので，賛美歌「When We Arrive at Home」（ジェレミー・インガルス作）の曲によった

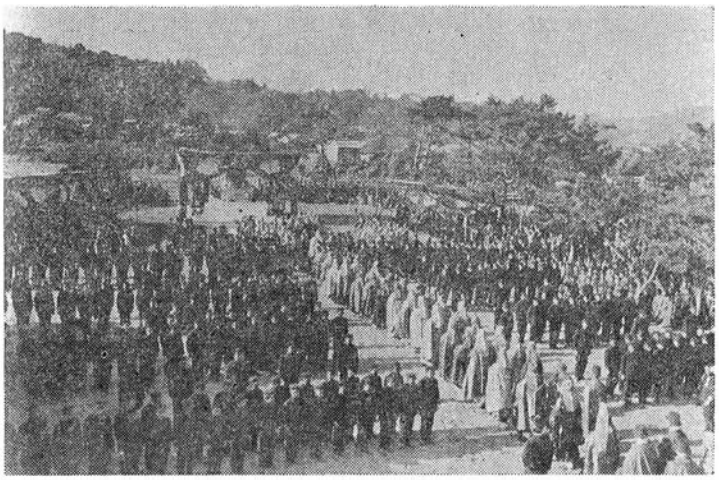

写真６　遭難生徒追弔大法会　明治43年２月６日　逗子開成中学校校庭

七里ヶ浜哀歌
（真白き富士の根）
作詞　三角　錫子

1
真白き富士の根　緑の江ノ島
仰ぎ見るも　今は涙
帰らぬ十二の雄々しき魂に
捧げまつる　胸と心

2
ボートは沈みぬ　千尋の海原
風も浪も　小さき腕に
力もつきはて呼ぶ名は父母
恨みは深し　七里ヶ浜

3
み雪はむぜびぬ　風さえ騒ぎて
月も星も　影をひそめ
み魂よ何処に迷いておわすか
帰れ早く　母の胸に

4
み空に輝く　朝日のみ光
暗にすむ　親の心
黄金も宝も何しに集めん
神よ早く我も召せよ

5
雲間に昇りし　きのうの月影
今は見えぬ　人の姿
悲しさ余りて寝られぬ枕に
響く波の音も高し

6
帰らぬ波路に　友よぶ千鳥
われも恋し　失せし人よ
尽きせぬ恨みに泣くねは共ども
きょうも明日も　斯くて永久に

*.

真白き富士の根

大正４年（1915）８月，この歌のレコードが発売されたことから，全国で歌われるようになった．原題は「七里ヶ浜の哀歌」であるが，歌い出しのフレーズをとって「真白き富士の根」と呼ぶのが定着した．

昭和10年（1935）に松竹が，同29年（1954）に大映が事件を映画化した．この大映版のタイトルが「真白き富士の嶺（根）」となっていたことから，このように表記されることもある．もともと，「根」は誤記であって「嶺」とすべきであったという指摘もあるが，岩波古語辞典には，

【ね】嶺ネ［根］と同根．大地にしっかり食い込んで位置を占めているものの意．

とあるから，「富士の根」は「裾広く，頂き高い富士山の全容を，大地にしっかりと食い込んでいる山」と捉え

写真７　三角　錫子

*アメリカの作曲家ジェレミー・インガルス Jeremiah Ingalls（1764～1828）はかつて自分が作った Garden Hymn という歌を元に When We Arrived at Home を作り，それを示すために楽譜の右肩に Garden と記した．それが誤解され，作曲者は長く「ガーデン」と記されてきた．

た表記と考えてよいとする意見もある．

逗子開成中学校

明治36年（1903），東京にある開成中学校の分校第二開成中学校として設立された．海軍軍人が多く住んでいた横須賀線沿線に，自宅から子弟を通学させることができる中学校を－－－という海軍の要請に，当時海兵合格率が高いことで知られていた開成中学が応じたものであった．学業についていけない者，体が弱く療養が必要だとされた者が第二開成中学校に一時的に転校させられたケースも多かったという．1909年，独立組織となり逗子開成中学校に改名した．遭難したボートは海軍から払い下げを受けたものであり，遭難生徒の捜索に横浜鎮守府の駆逐艦などが出動したことも海軍との浅からぬ関係によるものである．ボートで遭難した生徒の中には，21歳，20歳，19歳（３名）など，中学生としては年長のものが多く，他の中学で事件を起こし転校してきた問題児も含まれている．しかし，校則を破った生徒らは「帰らぬ十二の雄々しき魂」と美化され，学校当局の責任を問う声が強まり，直接の監督責任を負うべきとされた寄宿舎舎監　石塚巳三郎教諭は自発的に退職の道を選んだ**．

宮内寒弥と小説「七里ヶ浜」

事件後70年にもなろうとする昭和53年，宮内寒弥はこの事件を題材に小説「七里ヶ浜」（写真８）を発表した．三角との間に進みかけていた縁談が遭難事件により破れるなど，事故の責任を負わされた若い教師　石塚の数奇な運命が描かれている．宮内は石塚の遺児で，生前語ることがなかった父の人生を辿り，この小説を執筆したのである．

4. お わ り に

本稿で取り上げた３つの歌を年代順に並べてみると，以下のようになる．

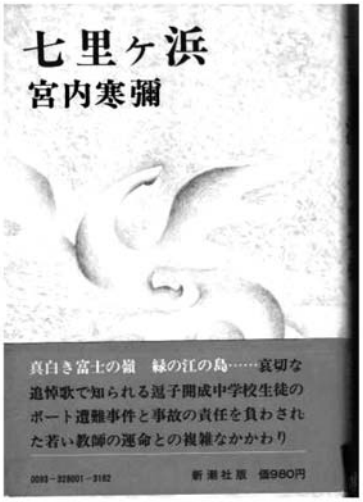

写真８　宮内寒弥著「七里ヶ浜」

		作詞者	作曲者
1910	七里ヶ浜哀歌	三角　錫子	（賛美歌の曲）
1917	琵琶湖周航の歌	小口　太郎	吉田　千秋
1941	琵琶湖哀歌	奥野椰子夫	菊地　博

これら３つの曲のメロディはよく似通っている．「琵琶湖周航の歌」の曲となった「ひつじぐさ」が作曲された時期には「七里ヶ浜哀歌」が大流行していたので，吉田千秋がその影響を受けたことは否定できないであろう．また，「ひつじぐさ」の曲のルーツは英国の賛美歌，スコットランドの民謡にあるとも言われるが，似た感じのものはあっても特定はできないようである．

JR 湖西線今津駅から徒歩４分，湖岸よりの場所に「琵琶湖周航の歌資料館」（TEL：0740-22-2108）があり，「琵琶湖周航の歌」の英語版 CD などが販売されている．一度のぞいてみることをお勧めしたい．

本稿を執筆するに際して，参考にした文献を挙げておく．とくに飯田忠義氏の著作，逗子開成ホームページに多く拠っていることを記し，謝意を表する．

参 考 文 献

1) 小菅宏：琵琶湖周航の歌 誕生の謎（作曲者・吉田千秋の遺言），NHK 出版，2004.
2) 飯田忠義：琵琶湖周航の歌　小口太郎と吉田千秋の青春，（自費出版，京都新聞出版センター制作），2007.
3) 真白き富士の根（逗子開成ホームページ）（http://www.zushi-kaisei.ac.jp/history/fujinone/fujinone.html）2004年.
4) 琵琶湖哀歌の成立過程（三文楽士の音楽室），（http://music.geocities.jp/japan_mellophone_alliance/biwako/melody2.htm）2009年.
5) 宮内寒弥：七里ヶ浜，新潮社，昭和53年.

**「学校に手落ちがあったとは思えないのだが，--- 学校側は多額の賠償金を支払うために姉妹校だった鎌倉女学校の中学校専用校舎の土地を手放すことになった. 海軍関係からの圧力により，不祥事を誤魔化して美談にすり替える情報操作が行われた可能性が高い」という話もある（参考文献[4]）.日本音楽センター発行『美しき歌　心の歌』の歌詞集の解題に，「・・・事件後83年間，同校で演奏することはタブーになっていましたが，平成５年４月18日，PTA コーラスたっての願いで演奏されました.」とあるのは，学校当局の複雑な心情をうかがわせる．